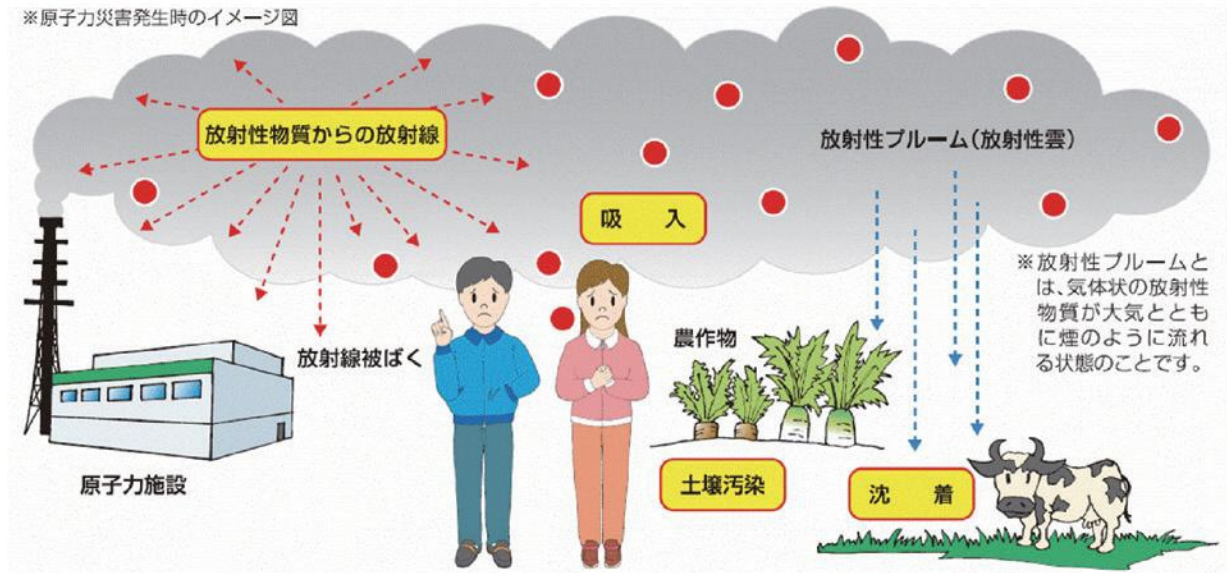


原子力防災対策について（その1）

東通原子力発電所で大規模な事故が発生した際に、村民の皆さんにとっていただきたい行動や知っておいていただきたいことなどについて、定期的に広報紙に連載してお知らせします。

◆原子力災害の特徴◆

- ◇地震や津波などとは違い、原子力発電所から放射性物質が放出された場合、その影響は五感で感じることができません。
- ◇そのため原子力施設の状況や放射線の測定結果を踏まえた判断が必要であり、国や県、村の指示に従って行動する必要があります。



〈問合せ先〉 原子力対策課 ☎（直通） 33-2268

今日の『ひがしとおりの話』

No.1 尻屋崎灯台の始まり

昨年12月「尻屋崎灯台」が重要文化財に指定されましたが、どんな人が設計したかご存知の方は少ないのではないでしょうか？尻屋崎灯台を設計・建設したのはスコットランド出身のリチャード・ヘンリー・ブラントン氏で、1868年8月から1876年にかけて日本に滞在し、全国に28基（灯船2、灯竿3を含む）の灯台を建設しました。現在では「日本の灯台の父」と称されています。

ブラントン氏が設計した灯台は外観が類似していることが多く、中でも尻屋崎灯台と千葉県にある犬吠埼灯台はその姿がよく似ています。現在「のぼれる灯台」として16基の灯台が登録されていますが、全国各地を回って灯台を参観している方たちは、その灯台の成り立ちや、設計者によって異なる外観の相違を楽しんでいるようです。

尻屋崎灯台が重要文化財に登録されてから初めての行楽シーズンを迎えます。たくさんの観光客の方が来てくださるといいですね。



写真1：尻屋崎灯台



写真2：犬吠埼灯台